

2010年度経営プラン Q3フォロー

2011年2月
古河電気工業株式会社
取締役CFO 櫻 日出雄

(単位:億円)

前年同期比営業利益 2.7倍

09Q3 10Q3
97⇒266

「伝送インフラ」 新興国向け伸張も国内は減 100⇒ 81

「高機能素材」 電子・自動車分野向け回復 -20⇒170

その他 17⇒ 15

通期予想は据え置き

売上高 9,200 営業利益 360

経常利益 320 当期純利益 125

10Q3累積(10年4~12月)PL 営業利益が増加 FURUKAWA ELECTRIC

(単位:億円)

	a	b	b-a
	09年4~12月	10年4~12月	増減
売上高	5,813	6,867	+18%
営業利益	97	266	+174%
持分法損益	27	8	-20
為替損益	+4	-8	-12
経常利益	96	234	+143%
少数株主損益	27	-40	-67
当期利益	105	112	+6%

10Q3末(10年12月末)BS ROA改善

FURUKAWA ELECTRIC

(総資産、有利子負債の単位:億円)

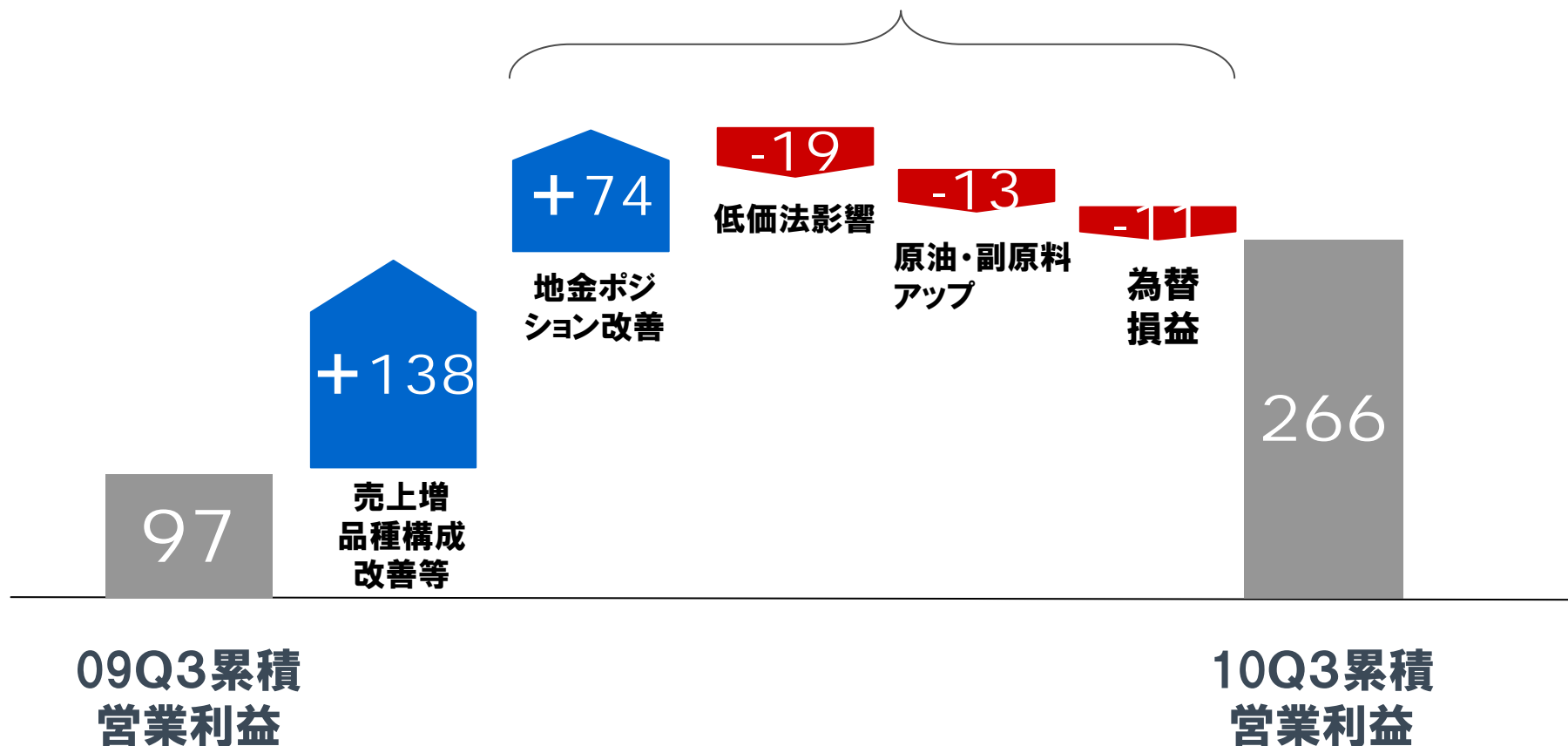
	a	b	b-a
	09年度末	10Q3末	増減
総資産	8,358	8,575	+3%
自己資本比率	19.6%	19.5%	-0.1
有利子負債	3,621	3,707	+2%
D/Eレシオ	2.22	2.22	±0
総資産回転率	0.97	*1.07	+0.1
ROA	2.4%	*4.1%	+1.7
(営業利益ベース)		*年率換算値	

Q3累積(10年4~12月) 営業利益増減分析

FURUKAWA ELECTRIC

(単位:億円)

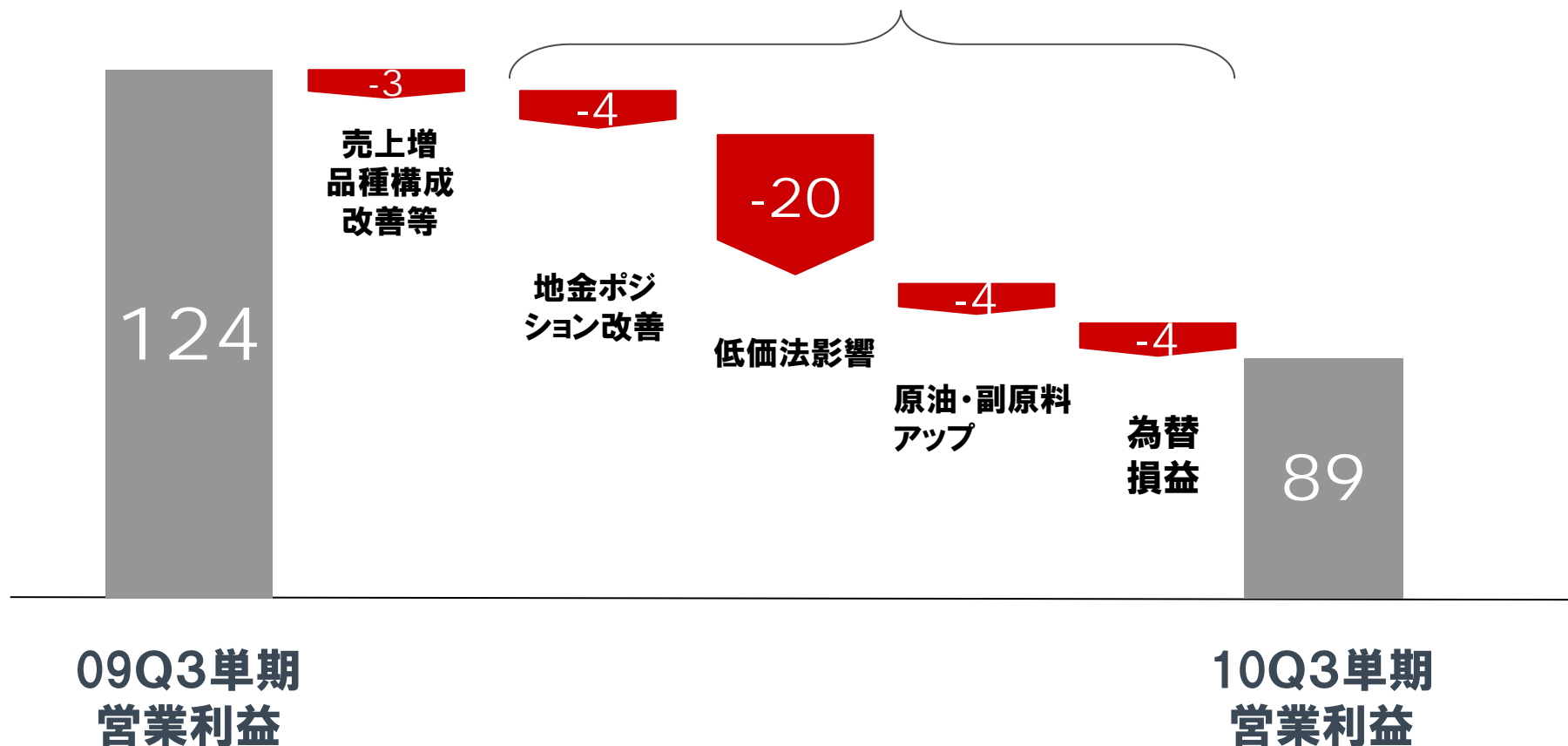
特殊要因合計+31が加わり前年同期比+169改善



Q3単期(10年10~12月) 営業利益増減分析 FURUKAWA ELECTRIC

(単位:億円)

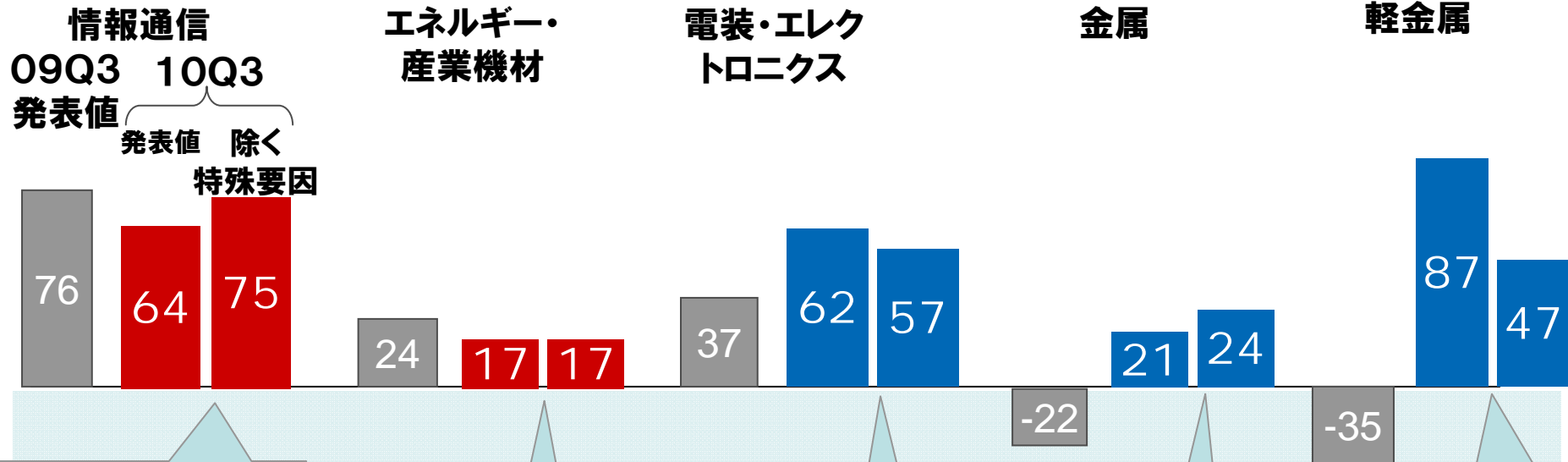
特殊要因合計-32除くと前年同期とほぼ同レベル



Q3累積(10年4~12月)セグメント別営業利益 FURUKAWA ELECTRIC (単位:億円)

伝送インフラ系

高機能素材系



ブラジル・北米の携帯網向け通信ケーブルや国内CATV関連好調も、国内の通信ケーブル・輸出ファイバが低調だった。但し、特殊要因-11(主に為替)を除くと75で前年比-1。

中国の超高压ケーブル好調も、建設用電線は低調が続き、液晶TV用反射板の量産立ち上げでコストが上昇した。

HD用基板は在庫調整で低調続くも、スマートフォン用の巻線や軽・高級車用ワイヤーハーネスが好調だった。

リチウム電池用・回路用銅箔は伸び悩むも、電子部品用銅条やエアコン用銅管の需要回復が貢献した。

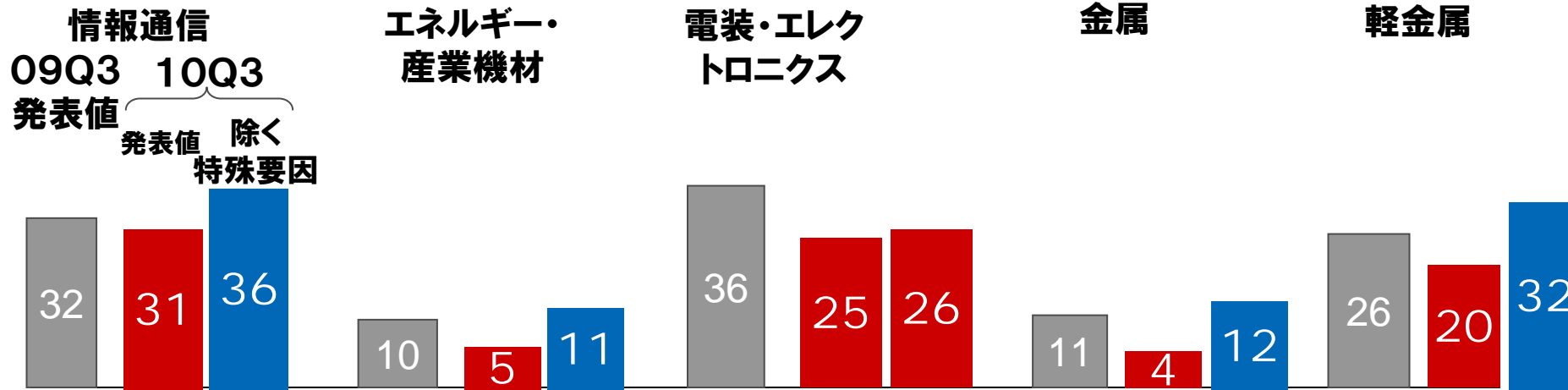
半導体・液晶製造装置向け厚板や、自動車・アルミ缶材等の需要回復が貢献した。但し、特殊要因+40(主に地金ポジション改善)を除くと47となる。

Q3単期(10年10~12月)セグメント別営業利益

FURUKAWA ELECTRIC
(単位:億円)

伝送インフラ系

高機能素材系



ブラジルの携帯網向け通信ケーブルや国内CATV関連好調も、国内の通信ケーブル・輸出ファイバが低調だった。但し、特殊要因-5(主に為替)を除くと36で前年比+4。

中国の超高压ケーブル好調も、建設用電線は低調が続き、液晶TV用反射板の量産立ち上げでコストが上昇した。但し、特殊要因-6(主に地金・原油)を除くと11で前年比+1。

スマートフォン用の巻線は好調だったものの、HD用基板の在庫調整や、ワイヤーハーネスのコスト増が影響した

エアコン用銅管の需要が堅調だったものの、銅条や銅箔が伸び悩んだ。但し特殊要因-8(主に低価法)を除くと12で前年比+1。

半導体・液晶製造装置向け厚板が堅調だったものの、特殊要因-12(主に低価法)が影響した。特殊要因を除くと32で前年比+6。

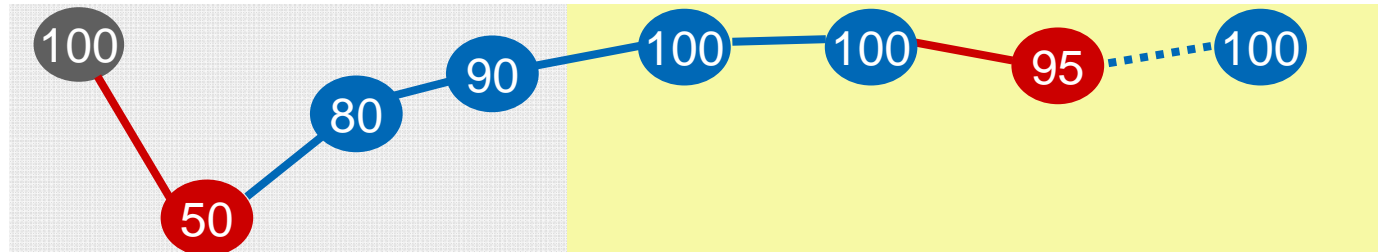
高機能素材

数量ベース
08上=100

08上 下 09上 下 10Q1 10Q2 10Q3 10Q4e

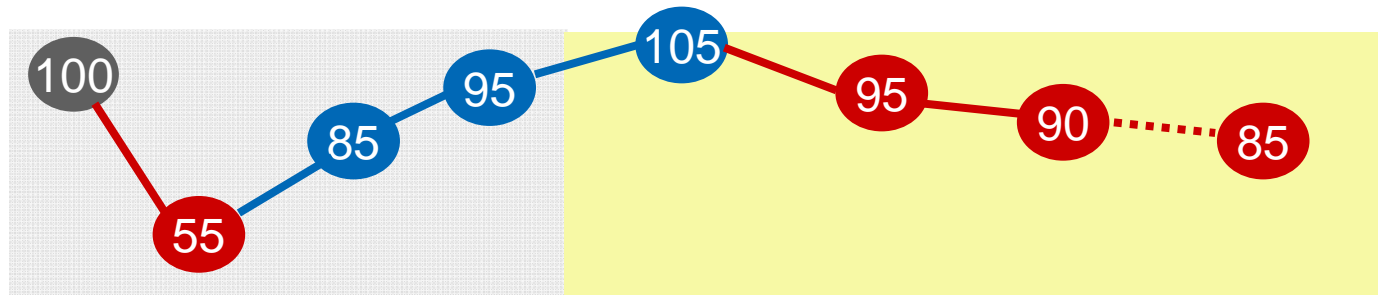
銅箔

リチウム電池・
プリント基板用



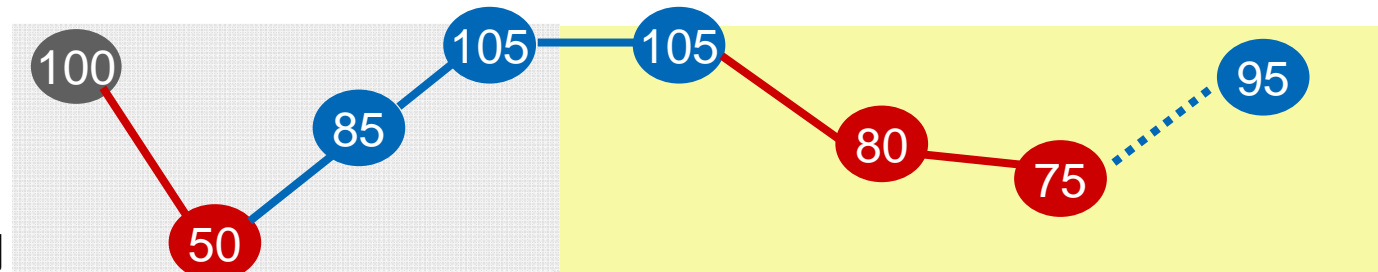
半導体 テープ

ウェハ加工用



アルミ ブランク

ハードディスク用



伝統的加工事業

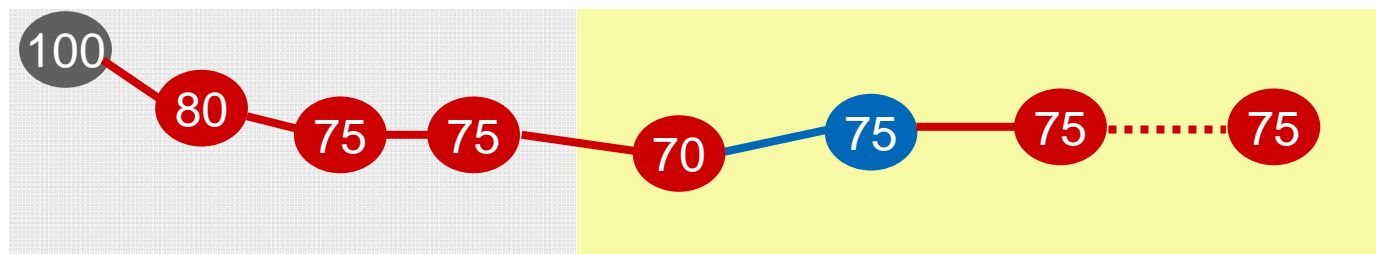
単体・数量ベース

08上=100

08上 下 09上 下 10Q1 10Q2 10Q3 10Q4e

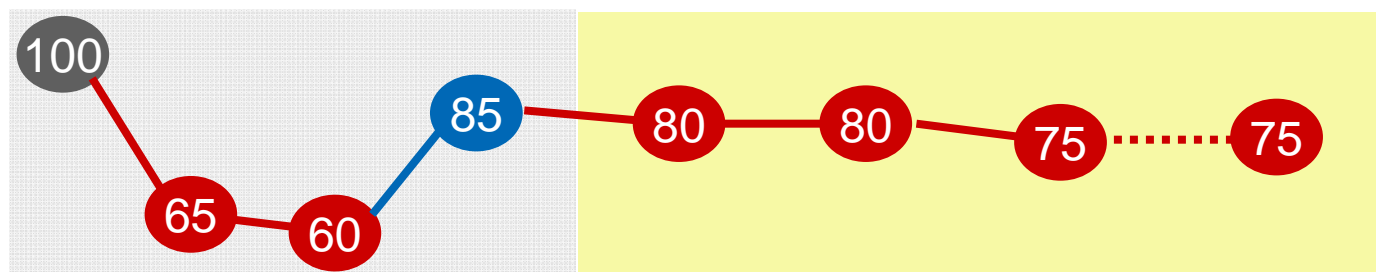
銅線

電線導体用



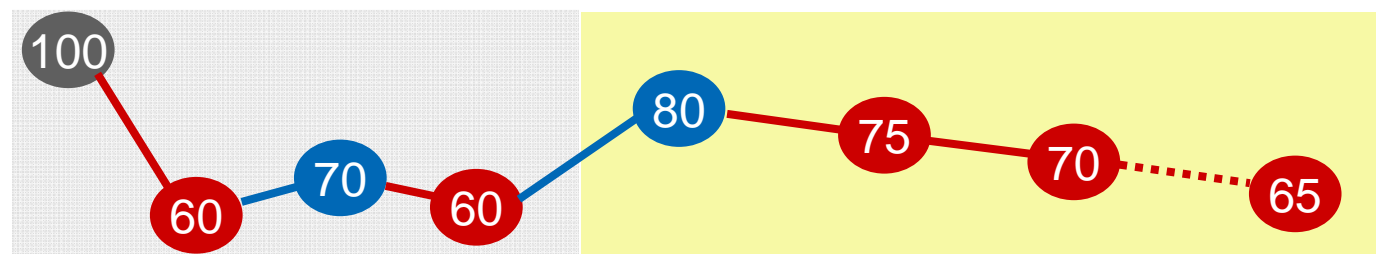
銅条

リードフレーム、
コネクタ材



銅管

エアコン用



●「伝送インフラ」のグローバル展開

【情報通信】 中国ヘントン社とプリフォームJV設立に合意（11年末稼働予定）

【エネルギー】 中国華通社と産業電線JV設立に合意（10年11月操業開始）

●「高機能素材」のポジション強化

【産業機材】 LED液晶テレビ用MCPETの量産開始（10年度Q3～）

【電装エレ】 ハードディスク用ガラス基板の量産開始（10年度Q3～）

【金属】 日本・台湾でリチウム電池箔の能力を3倍増（11年度～段階的に）

●伝統的銅加工事業の構造改革

【電装エレ】 巻線の国内生産を2拠点に集約（10年10月～）

【金属】 国内銅管事業の生産体制を見直し（11年度に完了予定）

【金属】 中国りん青銅条子会社を合併化（10年末に新会社設立）

ご清聴ありがとうございました。

Bound to  ***Innovate***

将来情報についての注意事項

この資料に記載されております売上高及び利益等の計画のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況、ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、例として以下のものが挙げられますが、これらに限られるものではありません。

- ・米国、欧州、日本その他のアジア諸国の経済情勢、特に個人消費及び企業による設備投資の動向
- ・米ドル、ユーロ、アジア諸国の各通貨の為替相場の変動
- ・急速な技術革新と当社グループの対応能力
- ・財務的、経営的、環境的な諸前提の変動
- ・諸外国による現在及び将来の貿易規制等
- ・当社グループが所有する有価証券等の時価の変動

従いまして、実際の売上高及び利益等と、この資料に記載されております計画とは大きく異なる場合があることをご承知おき下さい。なお、当社グループは、この資料の本リリース後においても、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。

著作権等について

この資料のいかなる部分についてもその著作権その他一切の権利は、古河電気工業株式会社に帰属しており、あらゆる方法を問わず、無断で複製または転用することを禁止します。